

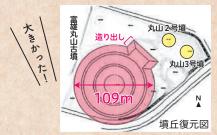
2017年に日本最大の円墳であることが判明した「富雄丸山古墳」。日本中の注目を集めた富雄丸山古墳ですが、奈良市内には700基以上の古墳があり、規模や歴史的価値が日本有数のものもあります。今回はそんな日本に誇る奈良市の古墳を紹介します。

日本最大の円墳富雄丸山古墳





並丸山古墳は2017年に実施した上空からのレーザー測量調査で日本一大きな円墳であることが判明しました。この古墳は、4世紀後半(古墳時代前期後半)に築造されたと推定されます。当時では新しい形の「円墳」として築造されており、国内最大の大きさを誇ることからも、被葬者はヤマト王権の大王をサポートしていた勢力の可能性があるとされています。



Topics 市民協働で発掘調査し、市民が銅鏡を発見

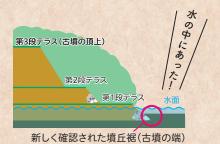
2 018年から、地元住民に周辺環境整備(草刈り等)の協力を得ながら、古墳の調査を行っています。市民参加の発掘調査も実施しており、2019年11月には墳頂部から中国製の斜縁神獣鏡の破片が市民により発掘されました。これは3世紀頃に中国北東部から朝鮮半島北部で作られたものと推測されています。国内では近畿地方を中心にこれまで45面ほど見つかっていますが、富雄丸山古墳からの出土は初めてです。今後も市民参加型の調査で掘り進めていくので、興味のある人はぜひ参加してみてください。



奈良市最大の前方後円墳 ウワナベ古墳

2 020年10月、全国初の宮内庁・県・市の同時調査を実施。佐紀 古墳群東群のウワナベ古墳の全長が270~280mであることが判明し、奈良市最大の前方後円墳となりました。調査では、周濠の水を一時的に抜きました。その結果、これまで水に埋もれていた場所から葺石が現れ、初めて墳丘裾(古墳の端)を確認でき、これまで推定していた全長よりも、さらに15m以上大きいことが明らかになりました。

また、計5か所から第1段テラスの 埴輪列が確認され、鰭付円筒埴輪や ひれつきあきがおかた 鰭付朝顔形埴輪が多数出土しました。



これらは古墳時代前期(4世紀)に多く作られ、この古墳が築造された古墳時代中期(5世紀)にはほぼ作られていなかったとされています。前時代的な埴輪を墳丘や堤(池の周囲)にまで並べている大型の古墳は、全国的に見てもこの古墳のみで、非常に特徴的と言えます。これにより、中国大陸から先進的な文化を積極的に取り入れていた5世紀において、古い形の埴輪の配列にこだわった被葬者の保守的な側面が垣間見られます。



発掘で見つかったこぶし大の葺石 (古墳築造時に覆う石)。石の規則 的な配列が確認でき、墳丘裾であ ることが判明。

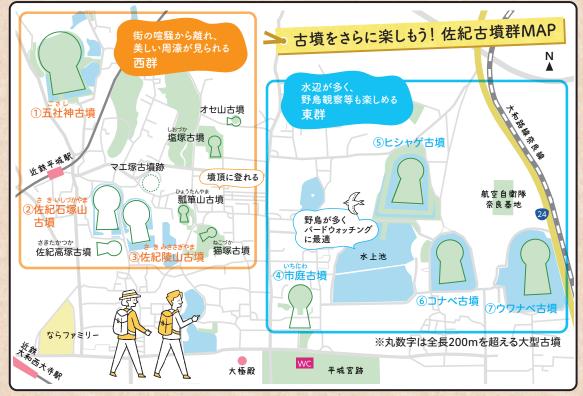


鰭付円筒埴輪 通常の円筒形の埴輪に 鰭状の突出部が左右2か 所に取り付いたもの。



奈良市の

佐紀古墳群奈良の自然と歴史のロマンを感じながら歩くウォーキングコースに最適!



城宮跡の北方に位置する佐紀古墳群。大和古墳群、馬見古墳群と合わせて「大和三大古墳群」と呼ばれています。築造時期を見ると、時の勢力が大和盆地を南から北へ移動する様子がわかります。佐紀は水運の利便性が良かったため、王権がこの地に移り、有力者らの墓が築造されたと考えられます。中でも宝来山古墳や五社神古墳には大王が埋葬されている可能性があります。

この古墳群には自然が多く残り、ウォーキングに最適!東群を歩くなら平城宮跡の遺構展示館駐車場を、西群なら近鉄平城駅を出発点にするのがオススメです。





/ Topics / 西群・東群とは?

佐 紀古墳群は、西群と東群に分類されます。西群は古墳時代前期後半~中期前半、東群は中期前半~後半に造られたもので、時代とともに西から東へ築造が進められました。全長200mを超える大型の前方後円墳は、少し南に離れた宝来山古墳を含めて8基存在し、その密集度は日本随一を誇ります。

Mest?

East?

→ 全長200mを超える大型古墳















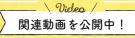
※広義では南群とされる



近鉄尼ヶ辻駅の西側に位置する 全長227mの大型の前方後円墳で、 築造は4世紀後半と推定される。近 鉄橿原線の車窓からも眺めることが でき、そのスケールを味わえる。

⑧宝来山古墳(垂仁天皇陵)







奈良市公式YouTubeチャンネルで配信しています! 実際の発掘現場の様子 や、より詳細な調査結果の内容、古墳周辺の美しい情景を紹介。上空からドローン で撮影したウワナベ古墳の全景も視聴できます。









「佐紀古墳群とウワナベ古墳 「日本最大の円墳 富雄丸山古墳(4K)」 ~奈良市最大の前方後円墳~(4K)」



他にも知られざる古墳がたくさん!

市の広報紙「奈良しみんだより」で掲載した古墳特集 を、市のホームページでまとめて紹介しています。ぜひ こちらもご覧ください。



【古都奈良の文化財8つの資産】



東大寺 とうだいじ

聖武天皇の発願で建立され総国分寺の役割を担いました。 盧舎那仏坐像(大仏)を安置する金堂(大仏殿)、聖武天皇 遺愛の宝物を納めた正倉院正倉(現・宮内庁管理)等、広大 な境内には数多くの国宝建造物が点在しています。



興福寺 こうふくじ

藤原氏の氏寺として建立されました。たびたびの火災で堂塔は焼失しましたが、そのたびに再建され、伽藍を保ってきました。鎌倉時代再建の北円堂・三重塔、室町時代再建の五重塔・東金堂の4棟が国宝です。



元興寺 がんごうじ

6世紀に飛鳥に建てられた法興寺(飛鳥寺)を、8世紀に平城京に移して建立。奈良時代の僧坊(僧の住まい)の部材を再利用して鎌倉時代に建てられた本堂(極楽堂)と禅室(共に国宝)があります。一部には今も飛鳥時代の屋根瓦が葺かれています。



薬師寺ゃくしじ

天武天皇が皇后(持統)の病気平癒を祈願して藤原京に建立。遷都によって、平城京に移されました。白鳳様式で建てられた奈良時代の東塔(国宝)は、優美。ほかの国宝建造物に鎌倉時代再建の東院堂があります。

奈良市の世界遺産は、8つの資産全体がひとつの文化遺産として登録されています。



春日大社 かすがたいしゃ

神山である御蓋山の西麓に、奈良時代に平城京の守護のために創建されました。境内には本社本殿(国宝)をはじめ、春日若宮おん祭で知られる摂社の若宮等多くのお社があります。



春日山原始林 かすがやまげんしりん

平安時代に狩猟と伐採が禁じられてから、御蓋山とともに春日大社の神山として保護されてきた原始林。約300haの広さがあります。わが国独特の神道思想のもと、自然と神社が一体となって形成する文化的景観を構成しています。



唐招提寺 とうしょうだいじ

戒律を学ぶ寺院として、唐僧の鑑真が創建しました。金堂(国宝)は、現存する奈良時代の金堂として唯一です。寄せ棟造りの屋根は、雄大で、「天平の甍」と呼ばれる鴟尾も有名。 ほかに、平城宮の東朝集殿を移した講堂(国宝)等があり、奈良時代建築の宝庫です。



平城宮跡 へいじょうきゅうせき

奈良の都・平城京の中枢部。国家の政治や儀式をする大極 殿や朝堂院、天皇が日常生活を送る内裏、饗宴を催す庭 園、行政機関である各役所がありました。 朱雀門、大極殿等が復原されています。

各月イチオシ行事特集

若草山焼き〈若草山〉

奈良市内を見下ろす奈良のシン ボル、若草山で行われる冬 の代表的行事。冬の古都 の夜空を赤々と染め上 げ、山全体が浮かび上 がるさまは壮観です。 伝統行事としてはもち ろん、火災予防のための 役割も果たしています。





珠光茶会 〈市内各社寺〉

奈良には、茶人・珠光により育まれた茶の湯があります。珠光は 「わび茶」の精神による茶の湯を創始し、今日、日本の代表的な文 化の一つである「茶道」の基礎をつくりました。このように、珠光 により育まれた「茶」も、奈良を「源」とする大切な文化であり、こ の「茶」を通して、奈良の魅力を発信したいという思いを結集する 場として、「珠光茶会」を開催しています。

修二会(お水取り)〈東大寺二月堂〉

1270年以上一度も休むことなく続く

伝統行事で、二月堂の本尊十 一面観音に、東大寺の僧 侶が人々にかわって罪 を懺悔して国家の安泰 と万民の豊楽を祈る法 要です。このお水取り が終わると、奈良に春が 訪れるといわれ、奈良の 人々に親しまれる行事です。



奈良市内の桜〈佐保川の桜〉

4月になると市内にはたくさん の桜が咲き誇ります。佐保 川両岸から伸びる桜並 み木の織りなすアーチ は圧巻。江戸末期の 奈良奉行 · 川路聖謨 が植えた樹齢170年 を超える川路桜も見ど ころの一つです。





薪御能〈春日大社·興福寺〉

春日大社舞殿•若宮社、興福 寺境内で行われます。夜 空に映える薪火の輝 きや自然の織りなす 舞台の美しさ、そこ にくっきりと浮き彫 りにされる能のゆか しさは、見る人を幽 玄の世界へ誘い入 れます。



竹供養(癌封じ夏祭り) 〈大安寺〉

古くから防腐作用があるとして、その皮や葉で 餅やちまきを包む等して、日本人の生活に密着

してきた竹の徳をたたえ、竹の霊を慰 める法要。本尊の前に青竹を置

き、供養法要を行った後、境 内の竹林にしめ縄を張り、 祭壇を設けてこれを供養 し、育成を祈願されます。 また、当日は癌封じの祈 祷が終日行われ、薬効が あると言われる笹酒の授 与もあります。





地蔵会(地蔵菩薩衣更法要) 〈伝香寺〉

7月

「裸のお地蔵さん」として知られる秘仏地蔵菩薩立像が特別開扉されます。衣の供えりの供えは何よりの供えたで、のはでいる。 でが母の菩提をとむらうため1228年より始められました。



なら燈花会〈奈良公園一帯〉

8月



古都の夜を幻想的に彩る灯りのイベント。奈良公園に広がる8つのエリアで20,000本以上のろうそくが美しい灯の花を咲かせます。見るだけでなく、参加型の「一客一燈」もあり、夏の夜を楽しむことができます。

采女祭〈采女神社(春日大社末社)〉

中秋の名月の日に猿沢池に入水した采 女の霊をなぐさめる采女神社の祭。JR 奈良駅前から猿沢池に至る三条

通にて花扇使、ミスうねめ、



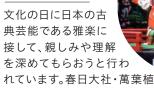
NARA CITYコンシェルジュ等の行列が行われ、采女神社例祭、花扇を管絃船に移し、雅楽の調べとともに池を巡り、最後に花扇を池に浮かべて采女の霊を鎮め、同時に人々の幸せを祈ります。

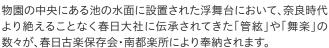
翁舞〈奈良豆比古神社〉



三番叟(三番目に出て舞う黒い面をかぶった老人) と千歳(せんざい)との問答に、能・狂言の発達の 前の古い形が残っており、国の無形を入れまり、国の無形されています。境内奥には大きな楠の木がひっ見の価値ありです。

文化の日 萬葉雅楽会 〈春日大社〉







12月

春日若宮おん祭〈春日大社〉

平安末期の保延2年(1136)に関白藤原忠通が五穀豊穣を祈って始めて以来、一度として途切れることなく、連綿と守り継がれている伝統行事で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。「遷幸の儀」から始まり、「御渡り式」が奈良市街を練り進み、夜遅くまで数多くの神事芸能が奉納されます。

古都の心が息づく名品

伝統工芸·産業

受け継ぐことに誇りを覚え、伝えることに喜びを感じる―。 奈良に残る伝統の技はこうして今も育まれています。



奈良漆器

わが国の漆工芸発祥の地として、正倉院や社寺の宝物に範を求めた作品も模写の域を脱し、なかでも螺鈿(らでん)塗の技法は奈良の独壇場です。



古楽面仏教ととも

仏教とともに仏教美術の一つ として大陸から伝わった舞 楽・伎楽の古面を中心に模造 して、鑑賞用として作られてい ます。一方、能・狂言にも使い 得る木彫の面を制作する作家 も活躍しています。

奈良一刀彫

平安時代末期、春日大社若宮の 祭礼に用いられたことが始まり です。豪快な刀法の彫刻の上に 綿密な極彩色を施して不思議な 調和を保っています。



赤膚焼

大和郡山城主の保護奨励の下に小堀遠州七窓の一つとされ、茶人好みの陶器として知られてきました。多くの作品を今に残す奥田木白によって更に名声を高めました。



春日大社の神官が軍器の形を模倣して作ったのが始まりです。正倉院模様や奈良の風物を透し彫りした風雅なものです。









鹿角細工

奈良の年中行事の一つ「鹿の角きり」は寛文11年(1671年)から始められたといわれ、その頃から名産品として角を種々加工し利用しています。



奈良晒

古事記の昔に源を発し、江戸時代には 「南都随一の産業」とうたわれました。狂 言、舞楽衣装等に加え、現在では茶巾、 テーブルセンター等も作られています。



奈良墨

大同元年(806年)、空海が唐から 製法を持ち帰り、興福寺二諦坊で 作ったのが始まりと言われていま す。今日でも、全国シェアの約 90%を奈良が占めています。



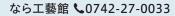
奈良筆

墨と同じく、空海が製法を伝えたと言われています。高級品を中心にわが国毛筆製造業発祥の地として貫禄を保っています。

工芸品を見たい、買いたい

なら工藝館では、工芸品を五感で感じ、皆様の 生活を工芸品で彩ってもらえるように、各種工 芸品の展示販売や、道具や原料に触れるコーナーに加え、作家さんの姿を間近に見ることが できるイベント等を開催しています。施設では車

いすの貸し出しや授乳室もありますので、どなたでもお気軽にお越 しください。









正 倉院には、遣唐使らによってもたらされた 渡来品とともに、それらを元に作り出した、数々の工芸品が納められています。その精巧な細工を施した調度品等は、すでに天平の工匠 たちが優れた技術をもっていたことを教えてくれます。

天平文化とともに花開いたこの工芸技法は、 後の南都の工人たちにも引き継がれました。中 世になっての、寺社とむすびついた工匠や細工 師等の諸座の隆盛は、それを物語っています。

中・近世に及んでは、ならまちで育まれた生活

文化とのかかわりとともに、さらに実を結んでゆきます。赤膚焼、奈良漆器、奈良一刀彫、奈良墨、奈良筆、奈良団扇、古楽面、奈良晒、鹿角細工等、人々の生活の中で育まれ発展した奈良の伝統産業と伝統工芸の品々は、伝統の技と心を今に伝える心のふるさと「なら」にふさわしい香り高いものです。

市では、こうした先人が残してくれた技術・技法を保存育成するとともに市民はもとより次代を担う子どもたちにも親しんでもらえるよう諸施策を展開しています。

産業政策課 📞 0742-34-4741